

ATENA フォーラム 2023 挨拶

原子力規制委員会の山中伸介でございます。

本日は ATENA フォーラム 2023 にお招きいただきありがとうございます。一言ご挨拶申し上げたいと思います。

この ATENA フォーラム、原子力規制委員会からの出席は 4 回目であり、私自身、2 回目の出席となりますが、原子力規制委員長を拝命してからは初めての出席となります。今回は、原子力規制委員長の立場で ATENA に期待することをお伝えしたいと思います。

ATENA は、東京電力福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないという強い決意の下、原子力産業界の自律的かつ継続的な安全性向上の取り組みを定着させていくことを目的に、原子力産業界全体の知見・リソースを効果的に活用し、我々、原子力規制委員会等とも対話を行いながら、効果のある安全対策を立案し、原子力事業者の現場への導入を促す新たな組織として設立されたと認識しております。

我々、原子力規制委員会、原子力規制庁も東京電力福島第一原子力発電所の事故の教訓に基づき設置され組織であり、このような事故を二度と起こさないという思いは同じであります。

私は、昨年9月に原子力規制委員長を拝命いたしました。その際の挨拶の中で、特に、情報発信と対話、現場重視、規制に関する人材の育成に注力していきたいと述べました。これは、東京電力福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないという同じ思いである ATENA への期待にも通じる部分であります。

本日は、そのような思いも込めまして、1. バックフィットと安全性向上、2. 安全とセキュリティ、3. 人材育成について、の3つのお話をさせて頂きたいと思っております。

まず、安全性向上とバックフィットについてお話させていただきます。

組織としての ATENA は申請者でも被規制者でもありませんので、個別事業者では言えないような意見を拾い上げ、

原子力規制委員会、規制庁に対する異論、反論も含めた事業者意見、提言の発信がより強く期待できると考えています。実際、私が委員長に就任した昨年9月以降もCNOとの意見交換会の場に坂井理事、富岡理事に出席いただき事故耐性燃料導入に向けた対応や10×10燃料導入に向けた対応について意見交換をさせていただきました。漸く、燃料についても国際的に標準的な燃料の導入が可能となって来たと考えておりますし、被覆管の母材についても高性能な標準材が使用されるようになることを期待しています。

また、昨年、原子力規制委員会においてバックフィットのあり方の考え方をまとめたところです。デジタル安全保護回路に関わる共通要因故障対策について、通常バックフィットというやり方ではなく、原子力規制委員会了承のもとATENA主導により事業者自ら技術要件を定め、自主的取り組みとして実施して頂きました。まだ、事業者とのやり取りが不十分ではないかと思われる所もありますが、今後、自律的かつ計画的に、対策が進められていくものと期待しております。BWRの建屋の水素対策についても、バックフ

イトによる対策と同時に自主的な安全性向上の検討を ATENA に求めている所です。

加えて、オンラインメンテナンスを含めて長期サイクル運転については、リスク情報の活用など様々な工夫を事業者全体で提案していただきたい所です。また、継続的安全性向上報告書については、事業者からも様々な要望が行われておりますが、原子力規制委員会においても現在検討しなければならない重要課題として位置づけております。今後、本件にも含めて安全性向上について ATENA がリーダーシップを発揮していただきたいと考えております。

次に、安全とセキュリティの問題について触れたいと思います。東京電力福島第一原子力発電所事故以降、原子力施設の安全性について大幅に向上がはかられ、その活動も非常に透明性高く公表されてきました。一方、原子力施設のセキュリティについては、その性格上、その情報が非公開とされることが多く、その活動は原子力規制委員会においても事業者においても限られた人数の職員で行われておりました。様々な課題がセキュリティには存在することが認

識されるようになり、規制委員会で改善を進めている所です。セキュリティの審査、検査能力の向上や安全とセキュリティのインターフェイスの問題が重要であり、それぞれの課題を解決していくことに加えて情報共有を改善していくことが大切であると考えております。

セキュリティについては、事業者間での good practice についての情報共有や課題の抽出が困難な分野であるとは思いますが、安全同様に ATENA がリードできる取り組みを望んでおりますし、産業界全体としてセキュリティの強化のための共通の素地が構築できると考えております。

最後に、人材育成についてお話します。原子力規制委員会も規制を行っていく上で、職員の能力向上は非常に重要であると考えます。

これは、原子力産業界でも同じことが言えると考えます。原子力発電所を運転させるためには様々な分野の人材が必要であり、そのために、多様な分野での人材育成が必要です。また、原子力発電所の安全性、セキュリティの向上のためにも人材育成は欠かせません。

最近、原子力発電所の再稼働が進む中、原子炉の安全性に関係するものそうでないもの様々ですが、トラブルが多発しています。原子力施設における、職員の技術力、現場力の低下が生じているのではないかと心配しております。大学のような教育機関においても原子力を学ぶ学生数の減少や、実験装置を自ら作成するという体験が少なくなっている現状を考えると、原子力の将来を導く人材の育成について今真剣に考える必要がある時期であると思います。

そのような中、ATENAの強みは、電力事業者だけでなく、メーカーも会員になっていることだと考えます。そのATENAが今まで以上に人材育成を積極的に行うことにより、ATENA設立の目的でもある原子力産業界の自律的かつ継続的な安全性向上の取り組みの定着へとつながっていくものと考えております。ATENAには、これまでの発想とは全く異なった若手人材の育成に是非取り組んで頂きたいと思います。

東京電力福島第一原子力発電所事故からもうすぐ12年、原子力規制委員会、規制庁も設置後10年が経ちましたが、今述べたATENAへの期待は、当然、原子力規制委員会、規制

庁でも行っていかなければならない課題だと認識しており、より一層、原子力規制について研鑽するとともに、様々なステークホルダーとの対話に努めてまいりたいと考えております。

ATENA の今後のますますの発展を祈念し、簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきたいと思っております。
ありがとうございました。